

1 (平成28年度) 冬期野菜栽培品目検討試験

試験の目的

市内の直売所等においては、冬期間も地物野菜に対する顧客の需要がありますが、その時期は品薄な状態となっています。また、販売方法の多様化により冬の野菜栽培に関心を持つ生産者も増えています。そのため本試験では12～1月の出荷を想定し、冬期にできるだけ無加温で栽培できる野菜について調査検討しました。

関係先

市内生産者・市内直売所

供試品目 (各ハウス共通)

リーフレタス, コマツナ, 小カブ, わさびな

1～2作期 (9月下旬から品目ごとには種及び定植時期を設定)

試験区設定

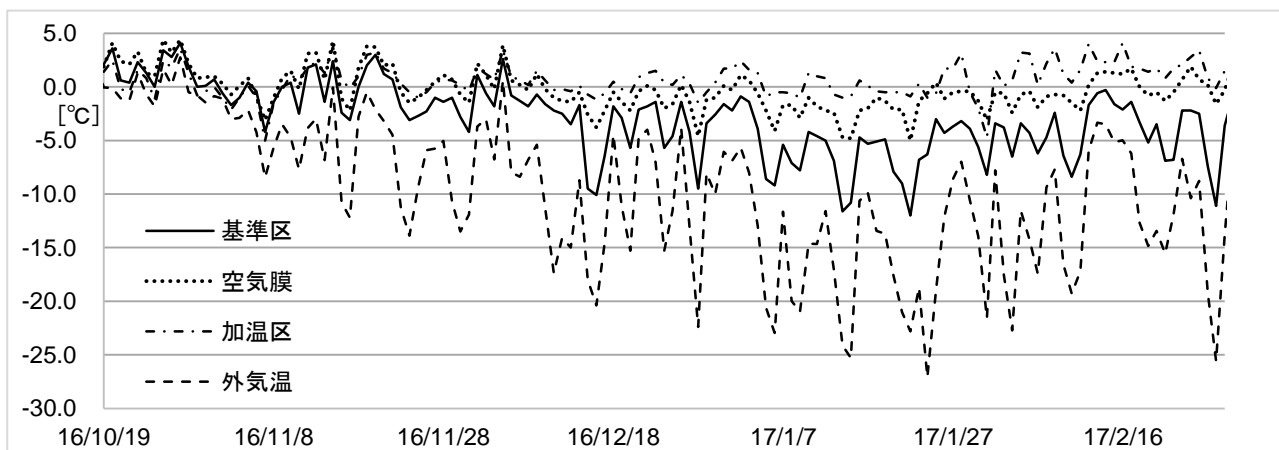
試験区名	ハウス(※)の保温設備	ハウス加温機	補助暖房
基準区	内張カーテン1層 トンネル1層	不使用	1月以降, 翌日の予想最低気温が-20℃以下の際に夜から翌朝にかけてジェットヒーターを使用(実稼動回数:2回)。
空気膜区	基準区と同設備 +ハウス天井に空気膜 二重フィルム(※)設置		
加温区	基準区と同設備	0℃設定で常時使用	不使用

※各ハウスは間口7.2m×奥行30m。

※空気膜二重フィルムについては「空気膜二重フィルムハウス夏期栽培調査」のページを参照してください。

調査結果

(1) 調査期間中の各区の最低室温推移



平成28年度は、10月下旬から12月上旬まで、平年に比べて低温が続き、日照時間も少なめでした。また、長期積雪(根雪)の初日が10月29日であり、平年よりも30日程度早くなりました。そのため、10月に入ってから播種または定植を行った品目は、定植初期からほとんど生育せず、栽培期間終了の1月末まで小さいままでした。

(2) 各作物の栽培結果（基準区）

（結果は全て供試した品種についてのものです）

リーフレタス

品種：アーリーインパルス（みかど協和）

9月下旬の定植では、12月中旬から一株200g以上になりました。その後1月上旬まで販売が可能な品質でした。



リーフレタス（12月中旬）

コマツナ

品種：陽翠（渡辺農事）

10月上旬の播種では、目標草丈である20cmへ到達しませんでした。平成27年度は10月中旬のは種でも栽培ができたことから、平成28年度のように秋が寒い場合には、保温に努めて初期生育を確保する必要があります。



コマツナ（2月中旬）

小カブ

品種：ゆきわらし（カネコ種苗）

9月中旬播種では、12月中旬に球径5cmになりました。葉を落とした球のみの販売であれば、2月中旬までは可能な品質でした。



小カブ（12月中旬）

わさびな（中原採種場）

摘み取り栽培（葉長27cm以上の葉を順次収穫）として10月中旬に定植したところ、収穫に至りませんでした。平成28年度のような気象条件においては、コマツナと同様の対処が必要です。



わさびな（2月上旬）

(3) 栽培マニュアル

平成26年度から平成28年度の試験結果を基に、得られた知見及び栽培事例を、「旭川市内におけるビニールハウス内の冬季野菜栽培マニュアル（暫定版）」としてまとめました。こちらは市内生産者の方を対象に、順次配布しています。もし未達の場合はお知らせください。

旭川市内における ビニールハウス内の冬季野菜 栽培マニュアル（暫定版）



2018（平成30）年1月

旭川市農業センター

栽培マニュアル表紙